



## 松山から発信する 俳句とことばの文化

俳人・正岡子規が、松山市で生まれたのは1867(慶応3)年の秋。34年の長くない生涯で残した俳句は、約2万5千句を数えます。また数だけではなく、自然や事物をありのままに写し取る「写生論」を唱えて、俳句と短歌の革新を実践したことが高く評価されています。子規はこの考え方を散文にも取り入れており、友人である夏目漱石も彼の影響を受けたひとりでした。俳人という枠を超えて、日本の文学界に大きな変革をもたらした子規は、紛れもなく明治を代表する文学

「ことば」にちなんだ  
名所もイベントも多数

者であり、多くのフォロワーを生み出しました。

偉大な先人の魂は、今も脈々と受け継がれています。子規の生涯や作品、彼が生きた明治の松山を紹介する松山市立子規記念博物館、点在する句碑や俳句ポストは、まさに俳都の象徴。俳句甲子園は若い世代が俳句に親しむ好機となっています。また江戸時代に活躍した俳人・栗田樗堂や昭和時代に松山を訪れた種田山頭火の庵は、しっとりとした風情を感じさせる場所として観光客にも人気のスポットです。

そして、市内のあちこちに掲示された「ことば」も市民を力づけています。これは2000年(平成12)から始まった、官民が協働して行っているまちづくり事業「ことばのまち」の成果。定期的に「ことば」を募集し、掲示や発信、「ことば」まつわるイベントの開催など、多様な取り組みを展開しています。正岡子規をはじめとする先人たちが生み出してくれた「ことば文化」にさらなる磨きをかけて、未来へとつないでいきます。

Matsuyama is the birthplace of poets like Shiki Masaoka, who was part of the revolutionary movement of modern haiku and tanka. Great literaries such as Natsume Soseki are also deeply associated with the City, where visitors can fully enjoy the culture of words through haiku and literature events.

### 愚陀佛庵

令和8年夏頃のオープンを目指し、夏目漱石と正岡子規がともに過ごした唯一の場所「愚陀佛庵」の再建を進めています。憩いの場として気軽に立ち寄り、「文学のまち」松山の新しい魅力を発信し、賑わいを創り出すとともに、未来を担う子どもたちが、ふるさとへの誇りと愛着を育む場所にします。



### 「俳都松山宣言」

2014年、「俳都松山宣言」を発表。俳人の夏井いつきさんを俳都松山大使に任命し、俳句のまち・松山を全国にPRしています。「俳都松山俳句ポスト」を市内80カ所以上に設けるほか、俳句に関連したさまざまなイベントも企画・開催。



### ことばのちから

一般から公募した「ことば作品」を、「街はことばのミュージアム」と題し、市内電車や松山空港など市内各所に掲示。「ことば」を生かしたまちづくりを行っています。



### 坊っちゃん文学賞

松山市の豊かな文学的土壌を生かして、本市の文化的なイメージを高め、全国にPRするため、昭和63年に「坊っちゃん文学賞」を創設。令和元年度の第16回からリニューアルし、ショートショート作品を募集しています。



### まつやま子規亭

子規記念博物館を会場に、好奇心旺盛だった子規が生きていたら興味をもち、喜ぶものなどをテーマに、各界の著名人が公演を行っています。



数多くの文人が生まれ、  
墨客が去来しつづ  
育んだのは全国に誇れる  
「ことば文化」

